

令和6年度 フラグシップ推進研究活性化プロジェクト経費 成果報告書

系名	表現活動教育系
プロジェクト名	多様性を有する学生を対象とした大学体育の在り方について —「異文化感受性尺度」を用いて—
プロジェクト概要	<p>近年、世界中でグローバル化が進む中、海外からの留学生に対応するための学校教育に注目が集まっている。一方で、インターネットやソーシャルネットワークサービスなどの非現実的な世界の普及も急速に進んでおり、人びとが世界の垣根を超えて関わり合うが、しかしそれは間接体験に過ぎず、その狭間で生きる若者たちに影響を与えている。</p> <p>このように日々変化する社会を生き抜く中で、異文化コミュニケーション能力は必要不可欠であり、その中でも異文化感受性の必要性が高まっていることは無視できない事実である。そこで、本研究では、コミュニケーション能力に大きく寄与しうる大学のスポーツ実技とその授業内容に着目することとした。本研究の目的は、異文化感受性とスポーツ実技の授業体験の関係を明らかにした上で、それらの授業体験が身体的精神的健康に及ぼす影響を検討することとした。</p> <p>2023年から2024年にかけて、受講生12名を対象に全15回の体育授業を行った。初回時に「異文化感受性発達尺度」(Intercultural Development Inventory)以下(IDI)(Hammer et al., 2003)を用いて、IDI得点を評価した。また、毎授業後には、リフレクションシートを用いて、体調の各側面(栄養、感情、身体、睡眠)について5段階、授業の振り返りの各側面(積極的な参加、仲間との協力、楽しさ、リフレッシュ、技能習得)について4段階で回答を求めた。</p> <p>そしてそれらの数値を学期の初盤、中盤、終盤に分類し、授業体験および身体精神的健康の指標とした。その他に、授業への出席回数を集計した。各評価項目間の関係を明らかにするために相関分析を行った。主な結果として、IDI得点の高さが出席回数と関連すること、授業の振り返りが前向きであるほど授業終盤の体調に関する項目の得点が良好である傾向などが見出された。</p>
プロジェクト構成員 (リーダーに※)	橋本 恒※、飯野 裕子、神藤 隆志

※様式は頁数が増えても差し支えありません。